

Sports Net

ちば 2016年2月号

New Japan Sports Federation in Chiba Prefecture

2016年 1月31日

「スポーツは平和とともに」

新日本スポーツ連盟千葉県連盟
〒263-0024 千葉市稲毛区穴川3-1-17

Tel 043-287-7353 Fax 043-256-1454

URL http://sports.geocities.jp/njsf_chiba

E-mail njsf1970chiba@gmail.com

発行人 園川 峰紀

通巻 166号

卓球協議会 新春大会を開催！

千葉県卓球協議会は1月24日（日）四街道総合公園体育館で新春卓球大会を開催。

昨年まで2月に加盟杯として加盟クラブの交流と親睦を兼ねた大会を、今回は未加盟チームにも広く呼びかけオープン大会とし、より参加し易いようにと試合形式も2ダブルス1シングルスに変更。4～5チームによるリーグ戦の後、順位トーナメント戦を行いました。参加者層は中学生から大学生そして70代の壮年まで幅広く、茨城県土浦市からの参加もありました。

参加チーム数は男女あわせて40チーム、スポーツ連盟の全国大会に出場したことのあるチームも参加し、レベルの高い試合が続きました。

男子1位トーナメントの決勝戦は全国大会出場経験のある木本（学）・秋元選手を揃えた若手赤翔馬Aがベテラン大椎クラブAを2対0（3-0 3-1）で下し初優勝。女子1位トーナメント決勝戦は経験豊かな杏仁クラブが一昨年全国スポーツ祭典個人戦で優勝した楠原選手を擁する赤翔馬を大接戦の末、2対0（3-2 3-2）で制し初優勝を飾りました。

土浦市から参加したBeeClover Aチームの大西さんは「試合数が多かったため、遠く土浦から来た甲斐がありました。順位トーナメントまでやってくれたのが有難かったです。」また赤翔馬監督の大木さんは「新年のスタートの試合としてチームとしては良いスタートが出来ました。今年もチームのスローガンでもある『飛躍』をテーマに上位で頑張っていければと思います」と感想を述べて下さいました。

一方「こんなにレベルの高い試合だとは思わなかった。」との声も聞かれ、次回どのような内容を企画すれば良いのかを検討する貴重な大会となりました。

試合結果は以下の通りでした。

（担当 金子泰夫）

<男子>

1位トーナメント

優勝	赤翔馬A
準優勝	大椎クラブA
第3位	BeeClover A
第4位	赤翔馬B

2位トーナメント

優勝	千葉商科大学
準優勝	大網クラブ
第3位	チームへなちよこ

3位トーナメント

優勝	BeeClover B
----	-------------

4位トーナメント

優勝	大椎クラブB
----	--------

<女子>

1位トーナメント

優勝	杏仁クラブ
準優勝	赤翔馬
第3位	チームへなちよこ
第4位	大椎クラブ

2位トーナメント

優勝	蘇我プラザA
準優勝	千城クラブ
第3位	Bears

3位トーナメント

優勝	菜の花クラブ
----	--------

4位トーナメント

優勝	中央クラブB
----	--------



男子優勝 赤翔馬



女子優勝 杏仁クラブ



GOZILA強し！ ～～～第7回ミックスバレー印西市大会～～～ 全国制覇に続き新春交流大会でも優勝！

2016年の新春を迎え今回で第7回目となる「ミックスバレーボール印西市大会」が印西市松山下公園体育館メインアリーナで開催されました。いつもの顔なじみのチームあり、新顔のチームありと合計9チームの参加。折からの今年最大の寒波が日本列島に押し寄せた中でしたが、アリーナの中は選手の熱気でムンムン！



音響機器のトラブルで試合開始が予定より若干遅れ、予選リーグのホイッスルが鳴ったのは午前10時08分。3面のコートで一斉に熱戦が始まった。各チームも第1試合ということで体が硬いのか思うようにボールが馴染んでこないのか、点を取ったり取られたりのシーソーゲームが続く。のっけからジュース、ジュースの連続。主催者も時間経過が気になり若干あせりの気持ちが濃くなる。そんな中、昨年11月金沢市で開催された第10回全国大会で優勝したチーム「GOZILA」の動きが鋭い。予選2試合の相手をストレートで下し決勝1位リーグに駒を進めた。その他に決勝1位リーグに進んだ

のは毎回参加のROUGE II（八千代市・秀明大学生チーム）と伏兵黒木Aチーム（印西市・社会人チーム）。

2位リーグにはROUGE I、緑風会館（千葉市・千葉大学生チーム）、ROMP HERO（成田市・社会人チー

ム）、3位リーグには初顔のサティスファクション（大網白里市・社会人チーム）とウニ君（成田市・社会人チーム）、



お馴染みの黒木Bの各チームがそれぞれ進んだ。

決勝リーグ1位部門でもGOZILAの勢い

は止まらず危なげなく試合を有利に進めて対戦するROUGE IIと黒木Aの2チームをいずれもストレートで退け優勝となった。準優勝はROUGE II、3位は黒木A。2位リーグではROUGE Iがトップ、続いてROMP HERO、緑風会館の順、3位リーグではウニ君がトップ、続いてサティスファクション、黒木Bの順位がそれぞれ確定し午後4時半に全競技を終了。

表彰式では優勝したGOZILA、準優勝チーム、3位チームへの表彰状と記念ボールの授与以外に全国大会記念タオルをチームへの参加賞として全チームに配布。今年の全国大会予選会の宣伝を行い、併せて新日本スポーツ連盟を始め各団体が取り組んでいる戦争法廃止を求める2000万署名を訴えて大会終了。一人でもいいから署名を送ってくれるように祈念して家路につきました。

最後に全国ミックスバレーボールセンターからスタッフとして参加していただいた千田さんから一言「選手の皆さんが礼儀正しいのは気持ちがいいですね」

（担当 園川峰紀）



千葉市スポーツ振興課と懇談会を開催

連盟では「スポーツ基本法」具体化委行動の一環として1昨年から続けている自治体要請行動として昨年11月10日の対県交渉に続き、11月26日千葉市と交渉を行いました。連盟から園川理事長・金子事務局長・田久保理事の3名。市側から丸島部長他2名がそれぞれ参加。冒頭、スポーツ予算の増額を求める署名363筆を手交。併せて連盟機関紙「スポーツのひろば11・12月号」「Sports Net ちば11月号」を手渡し、連盟員の皆さんから託された老朽化した各スポーツ施設の改善・使用料減免・スポーツ基本法の理念を盛り込んだ施策の策定等を担当者に伝えました。

市側からは、限られた予算内の業務であること、老朽化に伴う劣化は認識していること、保全計画に基づき「優先順位」の高いものから検討する旨の回答に終始。特にトイレの改善については、認識しており取り組む必要性はあるが、公園緑地課とスポーツ振興課の管理上の違いもあり、ここでも優先順位の高いものからという回答がキーフレーズに。

いずれにしても使う側の意見・要望を直接自治体窓口へ届けることの重要性がこれからも必要であることを改めて感じた要請でした。



☆要請の概要は次のとおりです

(連) = 連盟 (ス) = スポーツ振興課

(連)千葉公園・稲毛海浜公園等の野球場施設（バックネットラバーフェンス等）を含めトイレ等老朽化したものが多い。改修を含め改善措置を図られたい。

(ス)現状は特段支障がないものとする。劣化の度合いを見て長中期保全計画の中で対応したい。危険度が高いと利用者から声が上がれば対応を考えたい。

(連)青葉の森・高浜・海浜公園等のテニスコートトイレの改善を図られたい。

(ス)認識はしている。改善・改修の予定はある。県関係施設は県と協力して進めたい。公園管理課とスポーツ振興課の管轄違いもあり対応には時間がかかる。

(連)中田・稲毛海浜・花島のサッカー場を調整対象大会球技場にして頂きたい。

(ス)青葉のみが対象。稲毛海浜・花島は調整弁として検討を行う。蘇我スタジアム裏に新たなサッカー場が完成。対象となる。

(連)千葉市公園の老朽化対策・千葉ポートアリーナ冷房費減額等について市の考えは？

(ス)老朽化対策は計画段階の枠を出していない。冷房費は条例で決まっており、こまめに継続運転等で対応願いたい。

(連)高洲市民プール体育館の供与開始はいつごろになるか？

(ス)2016年冬を目途としている。バレー2名面、バスケット1面の規模となる。

(連)スポーツ祭典は県・市の後援事業となっていることから施設使用料の減免措置を図られたい

(ス)市体協加盟団体でも減免措置を行っていないケースもある。

(連)スポーツ振興計画にスポーツ基本法の理念を盛り込む立場で臨んで頂きたい。

(ス)基本法の理念を加味した内容としたい。現在スポーツ振興課で作成中。年明け2月からパブリックコメントを始める。

(連)市スポーツ施設の増設計画があれば明示願いたい。

(ス)市の基本方針は減らしていく方向。廃校となった学校施設の有効利用を図りたい。

懇談会を通して特に注目した事として

○スポーツ基本法の理念を加味した振興計画策定については、現在スポーツ振興課内で作成中。年明け2月頃パブリックコメントを実施。2016年4月から新たな施策が公表されることになる旨の説明がありました。市ホームページに公開予定とのこと。

○トイレの改善については、認識はしているとの事。公園緑地課・スポーツ振興課の垣根を超えることが肝要ではないかとの感想を持ちました。

第8回常任理事会報告

今年最初の常任理事会を1月27日（水）に開催しました。この会議の冒頭はいつも持ち回りでひろば誌の読後感想をしています。今回は担当欠席のため割愛したが、ひろば誌の読書会を企画したらどうかと意見が出されました。今後検討します。

1月24日は4種目もの競技が開催されました。ミックスバレーでは協議会つくりの中心になるメンバーを探し切れていないとのこと。テニスでは16面使用の新春チーム対抗大会が降雪の不安もあったが時間延長し決勝までやり通せたこと。野球の報告では理事会が年1回の開催でしかない。若手の審判登録をしたい。会計担当を明確にするなどがありました。卓球では岡山市で開かれた全国大会で常任理事の竹村氏がベスト8になったとの報告がありました。9月に開催される関東ブロック研修会の講師として国学院講師の秋葉氏と全国理事長の和食氏に決定しました。

協議事項では①全国連盟総会（3月12・13日）の代議員に浅沼副理事長の他2氏、全国役員に評議員として本田満副理事長、理事に園川理事長、監査に金子事務局長を推薦することにしました。②県連盟総会については議案書の丁寧な解説とともに組織拡大を中心に据え会議の活性化をします。また、各協議会の総会代議員の把握を早急に要請します。次年度人事については副理事長の浅沼氏は顧問に、事務局次長の日野氏は病気療養のため空席として次回理事会にかけます。なお、協議会推薦の理事を事務局に挙げてください。

その他、連盟の記念誌「50年のあゆみ」の購読を！各協議会の運営委員は必読の書としてぜひ手元においてください。安保法制廃止の2千万署名の励行。事務所トイレの洋式化として特別会計から30万円の出資を決めました。

（副理事長 浅沼 義明）



スポーツアラカルト

オリンピックとマスメディアのあり方

1月22日、日刊スポーツのサイトは「新聞4社と協賛契約 東京五輪・パラ組織委」の見出しを掲げ以下のように報じた。

2020年東京五輪・パラリンピック組織委員会は22日、大会スポンサーの「オフィシャルパートナー」として、朝日新聞社、日本経済新聞社、毎日新聞社、読売新聞社東京本社と契約したと発表した契約カテゴリーはいずれも「新聞」。国内最高位協賛社の「ゴールド」に次ぐ格付けとなる。

スポンサーは原則1業種1社だが、国際オリンピック委員会（IOC）の了解を得て特例を認めた。組織委関係者によると、国内の気運を盛り上げるため4社と締結した。（以上:nikkansports.com 2016/01/22より）

この契約で上記4社は、東京五輪・パラリンピックの呼称・マーク類・関連素材使用権、リグニッションプログラム、関連事業協賛権、商品・サービスのサプライ機会、マーケティングサポート等の権利を得る。ここに至る経過として、2002年から新聞界では唯一のJOCのオフィシャルパートナーをしていて2度にわたる招致活動も支援してきた。

東京五輪・パラリンピックでは「国を挙げて」の事業であり経費も40億円以上に昇ると予測されることから、12年前から契約していた読売だけでなく他3社も加わったようである。1社あたり15億円とのこと、各社はそれだけ出しても元が取れると見込んだようである。

外国のメディアの反応は「日本は変わっている、メディアが協賛団体になるなんて」等。現場の記者達の声は「批判的な記事を書いても社の上層部が組織委員会や国に忖度（そんたく）して載せない可能性がある」、「読者の声を味方に付けた取材で批判すべきは批判する良い機会になる」等。五輪は単なるスポーツイベントの枠を越え巨大な利権を生む市場になっていたが、莫大な負の遺産を残す可能性も孕んでいる。2024年五輪に立候補していたIOCバハ会長の地元ドイツ・ハンブルクが住民投票で支持が得られず撤退した。ドーピング問題、スポーツ組織の不正疑惑に加え、難民問題やテロ対策が影響したと思われる。2020年五輪はこれらに加え、東日本大震災とりわけ原発汚染処理問題が大きな課題として残されている。

各社の記者に要望することは、組織委員会や国の提灯持ちになることなくメディアの一員として批判精神を堅持してオリンピック・ムーブメント（平和、友好、平等）の進展に貢献してほしいものである。

（常任理事 秋本 信孝）

クラブ紹介

栄町クラブZ 野球協議会

- ① **クラブ(チーム)名** 栄町クラブZ
- ② **代表者** 碓井秀明
- ③ **連絡先** 千葉市中央区新宿1-12-6-803
- ④ **チームの概要**(名前の由来・チームの特徴・練習日程・人数等)

・チームの結成・名前の由来

かれこれ40数年前(昭和46年9月頃・第1回全国軟式野球大会は昭和42年に開催です)、千葉市中央区栄町のスナック「不夜城」の野球大好き店主が、店で顔を合わせる野球好き仲間の野球談議に加わり、“チームを作ったらどう?”と声をかけ、この話に花が咲きトントン拍子に話がまとまる。

名前はまず、店が栄町に在ったので「栄町」、どうせ寄せ集めなので強くないから、アルファベット最後の「Z」にし(トップの[A・エース]を目指して!頑張りましょうと言うこと)「栄町Z」、これだけではなんとなく物足りない感じ、恰好良くするため「クラブ」を入れ、『栄町クラブZ』と

命名し、“栄町クラブZ”丸が産声を挙げました。(チームには結成時から長い歴史を歩み、全国大会にも足を運ぶ老体あり…チームの誇り?)

結成当時の栄町は、華やかなネオンは少なく小さな店ばかりでしたが、数年後バブル期の到来により、まさに“不夜城”の様相を呈し、日本一の歓楽街とされ悪名を馳せましたが、

バブルが弾けるとともに火の消えたように閑散とした街に変貌し、現在では空き地の目立つ状況で当時の面影は全くなり残念な気がしています。また、現在スナックはなく

なりましたが、チーム名は依然としてそのまま変わる事なく健在です。

・チームの経過概要

結成当初は大会らしきものには一切参加せず、もっぱら栄町界隈の飲食店で作るこじんまりとした、名前ばかりの草野球チームと、お互いの都合の良い日に集まりユニホームは、自前持ち様々な姿でバックネットさえ良いような場所(原っぱ)で和気藹々とした雰囲気の中で戦い、試合後の飲み会では勝敗抜きに楽しんでいました。(こちらがメイン)。

数年後仲間の紹介・口コミ等から経験者が増え、メンバーもそこそこ揃ったので、ユニホームを揃え、本格的に活動することを考えて千葉市連盟の「C級」リーグに加盟参加しました。定期的に整備されたグラウンドで試合ができる喜びを味わう一方、当時では珍しくプロテクター・レガース等防具を身に着けた「千葉銀ヤング」チームとの対戦は、

さすが銀行のチームはちがうな〜と羨ましく印象に深く残っています。(現在では当たり前防具)

「C級」から「B級」に昇格できず、モタモタが何年か続いている時期に現在も当連盟で活躍中の「海浜ブラザーズ」の監督さんより、『新日本体育連盟(現・新日本スポーツ連盟)』という団体があり、定期戦を行い成績次第では全国大会に行けることを紹介されました。

みな、全国大会は一度経験してみたい!との要望が強かったため、16~17名で連盟に選手登録を行って以来、現在に至っています。

なお、この間、平成11年~13年まで3年間「ミズノカップ・サンスポ野球大会(サンケイスポーツ主催)」と2本立で参加していましたが、なかなか日程調整が折合わず、以後当連盟一本に絞って活動しています。

※チームの構成・クラブのアピールなどは次回に掲載予定です。



2015年リーグ戦 優勝



2015年リーグ戦 優勝決定戦



SPORTS CALENDAR

2月

7日(日) サッカー協議会・年間リーグ
市原オープン愛好者卓球大会

12日(金)～15日(月)スキー祭典

14日(日) なのはなテニス大会
サッカー協議会年間リーグ

21日(日) なのはなテニス大会
サッカー協議会年間リーグ

24日(水) スリーダブルス卓球大会

28日(日) なのはなテニス大会



3月

5日(土) シニアテニス大会
6日(日) サッカー協議会年間リーグ

12日(土) なのはなテニス大会
13日(日) かずさ加盟卓球大会
サッカー協議会年間リーグ

20日(日) 県連盟総会

26日(土) 春季バドミントン大会
27日(日) なのはなテニス大会

全国連盟定期総会3月12日(土)・13日(日)



スポーツ真っ盛り！

駅伝、ラグビー、サッカー、マラソン、卓球、…… 平和が一番！！

暮れから正月にかけていろんなスポーツが行われた。元旦の実業団駅伝、三が日を彩る箱根駅伝、澤穂希選手の引退試合と重なった女子サッカー、サッカーの甲子園ともいべき高校生サッカー大会、五郎丸選手を始めとしたラグビーワールドカップの影響でいつになく盛り上がったラグビー大会、そして新日本スポーツ連盟では、新春マラソンに多くの市民ランナーが、また全国卓球選手権大会にも多くの愛好者が集まった。上げると枚挙に暇がない。一方、ドーピングで話題となったロシアではプーチン大統領まで巻き込んだ賄賂が明るみになった。また新国立競技場建設問題では予算は1500億円という庶民感覚では到底理解できない金額で建設が本格的に進もうとしている。よくも悪くも2016年は始動したが……



理事長の独り言

このようにスポーツに関心が集まっている要因の一つとして2020東京オリンピック・パラリンピックがあげられると思うが、果たして喜んでばかりいいのだろうか？ スポーツ予算は本来国の予算にきっちり計上すべきと思うが、年々サッカーくじといったギャンブルに頼るといった傾向が強まっている。わが国のスポーツ予算は年々減少しており、こと公共施設については老朽化が目立ち、年間1000件の割合で施設が閉鎖されているという。スポーツ基本法に基づきスポーツ庁も発足したが、まだまだ未知数の分野が多すぎて全貌が見えてこない。足元をきちんと固めて進むという立場に立つことを今一度考えてほしいと思うのではないものねだりだろうか？

安倍内閣が、今国会で急遽持ち出したテロや災害を口実に全ての権限を首相に委ねようとするナチス・ドイツの全権委任法にも似た「緊急事態法」なる物騒な考え方はスポーツとは一番そぐわない。やはりスポーツには平和が一番似合う。彼の地ギリシャでもオリンピック開催期間中は、武器をすて、スポーツに集ったという。戦争は人が始めるもの、辞めさせることができるのも人。この立場にたって戦争法廃止を訴える「2000万署名」に取り組むことが求められているのでは…… 園川 峰紀